

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

課題に対する先人たちの努力や工夫の事例を多数掲載

巻頭「未来に向けて よりよい社会を目指して」

巻頭で、SDGsの17の目標とその実現に向けた先人の取り組みを紹介しています。帝国書院の地理的分野・公民的分野の教科書でも同様のページを設置し、中学校社会科の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけられるようにしています。

この教科書に登場する生徒
いづい、けんた、かえで、しゅん

これからの社会に向けて
私たちが暮らす日本も含めた世界の国々は、持続可能な社会を実現するために、SDGs (Sustainable Development Goals) とよばれる「持続可能な開発目標」に取り組んでいます。SDGsは、下のように17の目標からなり、世界のさまざまな問題の解決に向けて2030年までに達成すべき目標として、2015年に国際連合で採択されました。

生活を支かするために、先人たちがとってきた行動の一例をみて、よりよい社会をつくりたいヒントにならせます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

→ 巻頭1-2

未来の社会をつくるための教訓となる人々の取り組みを紹介するコラム「未来に向けて」を63か所に設置しています。よりよい未来を構想するためのヒントを得られるようにしています。

コラム「未来に向けて」

地理的分野・公民的分野と共通する「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマから、未来の社会をつくる取り組みを紹介しています。

未来に向けて 江戸のごみを利用した農業

環境・エネルギー

江戸時代半ば、砂村(現在の東京都江東区)では、野菜の促成栽培が行われました。江戸の町から出るごみを堆積し、発酵の際に出る熱を利用して早めに種をまくことで、早めの収穫を行いました。砂村の野菜は、初物好きの江戸の人々の間で大人気となり、高値で取り引きされ、ブランド野菜として将軍への献上品にもなりました。また、砂村のねぎやきゅうり、にんじんなどの野菜の品種は各地で栽培されるようになりました。

↑p.155

未来に向けて 自然を生かした信玄堤

防災

甲斐(山梨県)の武田信玄は川の氾濫を防ぐため、堤防で直接せき止めるのではなく、流路を変え岩にぶつて勢いを弱め、切れ目のある堤防で少しずつ水を逃がしました。このしくみで甲府盆地での洪水の被害は大きく減り、新田開発が盛んに行われました。

↓武田信玄(1521~73)
[和歌山県 高野山 持明院蔵]

↓信玄堤 堤防は江戸時代にかけられだした川の流れ

↑p.97

未来に向けて 中世の老人と子ども、女性

人権・多文化

絵巻物に描かれている子どもの姿を調べると、中世の子どもは、半ば遊びながら大人の仕事を手伝い、見習っていたことが分かります。なかでも、子どもにとって身近だったのは老人(高齢者)でした。老人は、守りなどの育児を担っていたため、同じことを何度も聞かざる子どもに、繰り返し話を聞かせました。こうして昔からの知恵や知識は、老人から子どもへと伝えられたのです。また、子どもも、体が不自由になりがちな老人の世話や介護を担っていました。老人と子どもは、このような互いの働きかけにより、とても親密な関係にあったのです。

一方、古代から中世にかけて女性の地位は高く、財産をもつことと相続することも認められていました。また奈良時代では、生まれた子は母親に属すると考えられていました。そのため、母方の姓を名乗る人も多く、「万葉集」(p.49)などによれば、娘の結婚には母親の承認が必要でした。鎌倉時代以降に商業が発達し、市などが各地でできること、外で高いをする女性も数多く登場しました(p.90B)。中世までは、このような女性の地位や権利が広く認められていました。

←p.93

未来に向けて 自然災害と神話

伝統・文化

「古事記」や「日本書紀」に書かれた出雲西部を舞台とするヤマタノオロチ伝説は、頻発した土石流などの洪水や水害が背景にあると考えられます。保水力が著しく低下した山地に豪雨が降れば、土壌は大量の水を含み巨大な岩石をも巻き込んで、崩壊を繰り返しながるれ落ちていきます。出雲の斐伊川はたびたび洪水を起こして、民を苦しめていました。いくつもの筋に分かれて下る土石流は、人々に八つの頭と八つの尾をもった巨大な大蛇にたとえられたと考えられます。また、物語のなかで生贖にさせられたクシナダヒメ(高野田姫)は、洪水により被害にあった「稲田」を家紋するとも考えられます。このような神話は、現在でも神事や神楽などに受け継がれています。

ヤマタノオロチの神話
アマテラスの弟スサノオノミコは、出雲国において、八つの頭と尾をもつヤマタノオロチに、いけにえとして食べられそうになった愛を救うことに成功しました。のちに二人は結婚しました。

↑p.49

未来に向けて ワクチン接種の始まり

平和・安全

世界中で流行した天然痘(p.109)は、日本でもたびたび多くの犠牲者を出しました。18世紀末によやく、種痘とよばれる、ワクチン接種による予防法が見つかり、1849年長崎へワクチンが輸入されました。この時、佐賀藩では藩士一族が率先して種痘を行いました。種痘は、接種した子どもから種痘に必要な種を取り、それを次の子どもに伝えるリレー方式でつなげていきました。

↑p.152

未来に向けて 今に生きる高度な技術

情報・技術

聖徳太子が建てたと伝えられる法興寺には、飛鳥文化を代表する多くの仏像や美術工芸品が残されています。金堂や五重塔、中門などは、現存する世界最古の木造建築として有名です。また現在まで五重塔を支えている柱(心柱)の技術は、現在の東京スカイツリーにも利用されています。

↑p.39

「未来に向けて」掲載ページ一覧(コラム全63か所+巻頭・巻末)

ページ	タイトル	テーマ	時代	ページ	タイトル	テーマ	時代	ページ	タイトル	テーマ	時代
巻頭1-2	よりよい社会を目指して			p.101	庭園づくりで活躍した河原者	人権・多文化	中世	p.166	工業の発達と地球温暖化	環境・エネルギー	近代前半
p.19	エジプトはナイルの賜物	防災	古代	p.109	アメリカ大陸に渡った病原菌	平和・安全	近世	p.167	工業の発達と生活環境の悪化	環境・エネルギー	近代前半
p.39	今に生きる高度な技術	情報・技術	古代	p.121	大規模建築と森林伐採	環境・エネルギー	近世	p.170	先住民の「涙の旅路」	人権・多文化	近代前半
p.47	古代の疫病の流行と人々の対応	平和・安全	古代	p.121	築城の工夫と技術	情報・技術	近世	p.171	奴隷制を告発した「アングル=トムの小屋」	人権・多文化	近代前半
p.49	自然災害と神話	伝統・文化	古代	p.123	朝鮮半島から伝わった文化	人権・多文化	近世	p.174	植民地の拡大と医薬品の開発	情報・技術	近代前半
p.55	自然へのおそれと陰陽道	環境・エネルギー	古代	p.129	日本と朝鮮をつないだ使節	人権・多文化	近世	p.175	世界各地に広がる人権思想・民族意識	人権・多文化	近代前半
p.58	紙園祭の始まり	平和・安全	古代	p.137	差別された人々	人権・多文化	近世	p.179	洗染一揆	人権・多文化	近代前半
p.73	鴨長明がみた自然災害	防災	中世	p.138	利根川のつけ替え工事	防災	近世	p.179	稲むらの火	防災	近代前半
p.80	グローバルな東西交流の光と影	情報・技術	中世	p.139	森林伐採と植林	環境・エネルギー	近世	p.187	差別からの解放運動	人権・多文化	近代前半
p.89	北海道独自の文化	伝統・文化	中世	p.145	日本人がつくった最初の暦	情報・技術	近世	p.201	自由は土佐の山間より	人権・多文化	近代前半
p.92	結核から見る技術の発達	情報・技術	中世	p.152	ワクチン接種の始まり	平和・安全	近世	p.203	日本での選挙の始まり	人権・多文化	近代前半
p.93	中世の老人と子ども、女性	人権・多文化	中世	p.154	日常生活を支えた江戸の上水道	情報・技術	近世	p.213	孫文と神戸のかかわり	人権・多文化	近代前半
p.97	自然を生かした信玄堤	防災	中世	p.155	江戸のごみを利用した農業	環境・エネルギー	近世	p.219	公害の登場 足尾銅毒事件	環境・エネルギー	近代前半

ページ	タイトル	テーマ	時代	ページ	タイトル	テーマ	時代	ページ	タイトル	テーマ	時代
p.222	日本中から支援が集まった明治三陸大津波	防災	近代前半	p.265	子どもの文化の変化	平和・安全	近代後半	p.295	言論の自由の回復と戦争へのまなざし	平和・安全	現代
p.222	差別された人々を描いた文学	人権・多文化	近代前半	p.269	語り継がれる沖縄戦	平和・安全	近代後半	p.298	世界に広がる日本の文化	伝統・文化	現代
p.223	「衛生」の登場と感染症への対応	平和・安全	近代前半	p.278	日本人戦犯の解放	平和・安全	現代	p.298	現在に残る沖縄の基地問題	平和・安全	現代
p.229	インフルエンザの世界的な流行	平和・安全	近代後半	p.283	核兵器開発競争と日本	平和・安全	現代	p.299	石炭から石油への大転換	環境・エネルギー	現代
p.231	祖国の音楽を紹介したドイツ兵	人権・多文化	近代後半	p.285	在日韓国・朝鮮人	人権・多文化	現代	p.299	男女共同参画社会へ	人権・多文化	現代
p.233	社会に羽ばたく女性たち	人権・多文化	近代後半	p.289	現在に残る沖縄の基地問題	平和・安全	現代	p.299	言論の自由の回復と戦争へのまなざし	平和・安全	現代
p.235	朝鮮との架け橋となった日本人	人権・多文化	近代後半	p.291	石炭から石油への大転換	環境・エネルギー	現代	p.298	世界に広がる日本の文化	伝統・文化	現代
p.241	全国水平社の結成	人権・多文化	近代後半	p.293	男女共同参画社会へ	人権・多文化	現代	p.301	日本における先住民	人権・多文化	現代
p.244	インフルエンザ流行による生活の変化	平和・安全	近代後半	p.295	言論の自由の回復と戦争へのまなざし	平和・安全	現代	p.303	現代社会の見直しを迫った東日本大震災	環境・エネルギー	現代
p.244	人々を魅了した洋菓子文化	人権・多文化	近代後半	p.298	世界に広がる日本の文化	伝統・文化	現代	巻末2	歴史から防災を学ぼうー神戸市を例に	防災	
p.245	大都市を襲った関東大震災	防災	近代後半	p.299	現在に残る沖縄の基地問題	平和・安全	現代				
p.255	芸術に込めた反戦の意思	平和・安全	近代後半	p.301	日本における先住民	人権・多文化	現代				
p.263	ドイツのユダヤ人迫害に抵抗した日本人	平和・安全	近代後半	p.303	現代社会の見直しを迫った東日本大震災	環境・エネルギー	現代				

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

歴史で学んだことを未来に生かす「これからの社会を構想しよう」

NEW

最終單元では、これまでの学習を「現在」・「SDGs」につなげて考える「これからの社会を構想しよう」を設置しています。歴史的分野の学習を振り返って、歴史と自分たちとのつながりや、現在の日本や世界のあり方について考える対話型学習に取り組むことで、**よりよい社会の実現に向けた参画意識**を育むことができますようにしています。

3 時代の特色を考察しよう。 思考・判断・表現

1 これまでの考察を踏まえて、近世はどのような時代だったかを、あなたの言葉でまとめよう。

近世の特色

近世は、 [] [の] 時代である。

なぜなら、 [] [だ] からである。

2 上でまとめたあなたの考えを、タイムトラベルを活用して、発表しよう。

「これからの社会を構想しよう」(→p.307) への準備

現在との つながりを考えよう

近世の学習から、現在の社会と共通していると感じたことは何か、また、大きく異なっていると感じたことは何か、右の視点を参考に話し合ってみよう。その際、タイムトラベルも改めて見返してみよう。

視点

- ・特産物の生産
- ・ひな祭りや端午の節句などの行事
- ・印刷物の普及 など

SDGsとの つながりを考えよう

コラム「未来に向けて」や本文、タイムトラベルなどから、地球的な課題と関連していると感じたものを探し、SDGsの17の目標のうちどの目標とつながっているのか、ほかの人と話し合ってみよう。



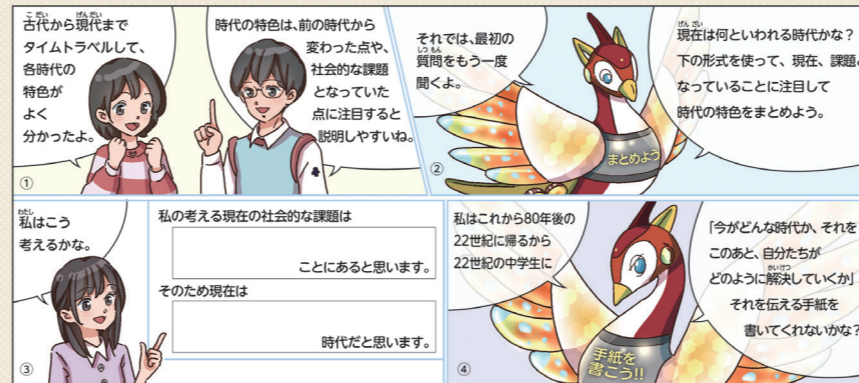
「学習する時代の見直し」(→p.105) に戻ってみよう 主体的な学び

章のはじめにあなたが立てた予想から、あなたの、この時代に対する考えはどのように深まっただろうか。章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを、下の「振り返り」に書いてみよう。

- 節や章の問い、時代の特色をまとめる際に使用した用語に✓をつけよう。
- 香辛料 (p.108)
 - 蝦夷地 (p.131)
 - 植民地 (p.111)
 - 五街道 (p.140)
 - 太閤 (p.117)
 - 浮世絵 (p.145)
 - 百姓 (p.118)
 - 貨幣経済 (p.146)
 - 旗本と御家人 (p.125)
 - 商品作物 (p.147)
 - オランダ風説書 (p.129)
 - 打ちこわし (p.148)
 - 朝鮮通信使 (p.129)

- 章の問い：学習を通して考えをまとめることが
- よくできた
 - できた
 - あまりできなかった
- 時代の特色をまとめるうえで有効だった「見方・考え方」
- 時期や年代
 - 推移
 - 比較
 - 相互の関連
- 「学習する時代の見直し」から考えが深まったこと
- 章の学習を通して感じたこと・さらに深めたいと思ったこと

これからの社会を構想しよう



ここでは、3年間の歴史の学習を振り返って、歴史と私たちのつながりや、現在と未来の日本や世界のあり方について、考えをまとめたり話し合ったりして、表現してみよう。取り組むときには、グループを組んでやってみよう。

1 各時代について、その特色と、現在やSDGsとのつながりを書き出そう

これまでの学習を振り返って、各時代の特色をまとめよう。そして、現在とのつながりやSDGsとのつながりを考え、右に書き出してみよう。その際には、各章の振り返りの「これからの社会を構想しよう」への準備で話し合った内容を思い出そう。

	時代の特色	現在とのつながり	SDGsとのつながり
2章 古代 → p.62			
3章 中世 → p.104			
4章 近世 → p.160			
5章 近代前半 → p.226			
6章 近代後半 → p.274			
7章 現代 → p.306			



↑p.307

展開①(p.307) 各時代について、その特色と現在やSDGsとのつながりを書き出す

各章末の「学習を振り返ろう」で考察した内容を、グループで話し合ってみよう。話し合ってみよう。話し合ってみよう。

展開②(p.308) テーマを決め、歴史的な背景を整理して課題解決への鍵を探る

- SDGs17のゴール(教科書巻頭1-2)などを参考にして、現代社会の課題となっていることの中から、関心の高いテーマをグループで決めよう。
- 設定したテーマについて、現在に至るまでにどのような歴史的経緯があったのかを整理しよう。
- 整理を踏まえて、課題を解決するために何が鍵になるかをグループで話し合おう。

展開③(p.309) これまでの学習を踏まえて、未来への手紙を書く

歴史的分野の学習の総まとめとして、「これから自分が何に取り組むつもりか、未来の社会はどのようなようになってほしいか」を、22世紀の中学生へ手紙を書く作業を設置しています。

公民的分野の学習へ

ポイント

各章末の「学習を振り返ろう」の中の「これからの社会を構想しようへの準備」で取り組んだ内容をもとに、現代社会の課題について歴史的な経緯を調べ、課題解決への鍵を探る学習活動をする構成となっており、公民的分野の学習に接続できるようになっています。